



# 施策 農業振興

目指す  
状態

「魅力ある柏の農業」を実現し、  
持続可能な都市農業が展開されるまちを目指します。



## 1 施策の現状と課題

- 本市では、農業者数の減少が続いており、今後も減少が進むと考えられます。農業者へのアンケートによれば、農業経営における問題として「自然環境の変化」のほか「労働力の不足」が上位となっており、「後継者がいない」、「収入が低い」といった回答も上位にのぼっています。
- 慢性的な労働力不足を解消するためには、新規就農者や後継者の確保だけでなく、農業者以外からも多様な人材を確保する必要があります。

## 施策の方向性 担い手の育成・確保を図る

次世代の農業を担う認定農業者の確保・育成に向け、県や農業関係団体と連携し、経営力の強化に向けた研修会や機械導入等の支援を行います。また、新たに農業に従事する意欲ある新規就農者、農業後継者については、受入体制の強化や就農後の継続的なフォローアップの充実により、経営の安定化を支援するほか、労働力不足を補うため、多様な主体との連携に取り組みます。

## 2 施策の現状と課題

- 本市では、耕地面積の緩やかな減少が続いており、耕作放棄地が増加傾向にあります。農地集積率（認定農業者などの担い手が耕作する農地の割合）は、全国と比べると低い状況にあり、意欲ある農業者への農地集積・集約を進めるなど、農地利用の効率化を図っていく必要があります。
- 全国的に、ICTや人工知能（AI）を取り入れたスマート農業が進展しており、本市においても、労働力不足の解消や生産量の拡大・安定化に向けてより一層の活用が必要です。
- 揚排水機場など多くの土地改良施設で老朽化が進んでおり、計画的に保全を実施するなど、生産基盤の整備を進めていく必要があります。

## 施策の方向性 効率化と生産性の向上を図る

既存の協議体等を活用しながら、経営規模の拡大に意欲ある農業者への農地集積・集約を進めるほか、農業委員や農地利用最適化推進委員と連携し、耕作放棄地発生未然防止・解消に取り組みます。また、先端技術を取り入れたスマート農業をはじめとした農業機械の導入や施設整備を支援するほか、老朽化した生産基盤については、関係団体と連携して計画的な補修・更新を進め、機能の維持・向上を図ります。

## 3 施策の現状と課題

- 本市では、水稻のほか、かぶ、ねぎ、ほうれん草を中心に多くの農産物が生産されており、新鮮で品質の揃った野菜を安定的に出荷できる産地として高い評価を得ています。また、古くから梨の生産も盛んなほか、いちごやブルーベリーの観光農園も積極的に展開されています。
- 道の駅しょうなんなどの大型直売所のほか、ショッピングモール内にも直売所ができるなど、地産地消が進んできており、市民アンケートでも、「(柏市産の農産物が) あれば購入している」といった回答がもっとも多く、市民の意識が高くなってきておりますが、引き続き認知度向上に向けた取組のほか、付加価値を高めていくことが重要です。また、農業者の高齢化に伴い、大型直売所等における出荷者の確保が課題となっています。

## 施策の方向性 地産地消や6次産業化等を通じた消費拡大を促進する

農業者や農協、飲食店など多様な主体と連携し、PRイベントの実施や情報発信を強化するほか、道の駅しょうなん等の拠点を活用し、販路の拡大や、農業体験・加工体験といった農業とのふれあいの場づくりを通じて地産地消の拡大を図ります。また、付加価値向上に向け、農商工連携等による加工品開発を支援します。併せて、農産物の生産拡大や安定供給のため、効率的な集出荷体制の整備など、消費の拡大に取り組みます。